

# 横浜市小児科医会ニュース



No.54 2017年4月1日

## 時 言

### 保育園開設ラッシュに思う

横浜市小児科医会常任幹事 大川 尚 美  
(大川小児クリニック)

平成31年2月、相鉄線と日吉方面が地下鉄で繋がり、その新駅が綱島東の私のクリニックの目の前に完成するそうである。

クリニックビルの一階を借り開業してから今年の秋で満29年になるが、思いも寄らぬ展開となった。

元、綱島ラジウム温泉「東京園」の広い敷地だった所で、現在も大工事が進行中である。

新駅が完成すれば、人の流れも大きく変わり、ますます綱島は発展して行くだろう。

それを見越してか、私のクリニックの近くでもマンションの新設が続いている。

そんな数ヶ月前のある日、港北区医師会の小児科の中野先生から一本の電話を頂いた。何でもこれから、綱島近辺に保育園が9つも新設されるということで、園医の確保が大変なので、一箇所引き受けて貰えないかというお話であった。

そんな状況であればもちろん否やも有るはずが無く、その場で私のクリニックに一番近い住所で開設される予定の某保育園の園医をお引き受けした。

診療中であったし、詳細はまた何処からか連絡があるだろうと思い、その時はあまり深く考えもせず電話を切った。

それから数週間後だろうか、その某保育園の関係者（と言っても、実際保育に携わっているとはいえない若いサラリーマン風の男性）から電話があり、いきなり「(コピーでよいと言われたかは忘れたが) 医師免許を提出して欲しい」とのことだった。

それは園医就任にあたって必須事項であるからして拒否はしないけれど、私はその時点ではまだ、その保育園関係者の誰からも何の挨拶も受けてないし、名刺一枚はおろか契約に関する何の書類も受け取っていなかった。はっきり言って、まず偽医者でないかどうか疑われたようで気分が悪かったので、その旨をそれとなく保育園関係の電話の主へ伝えた。

それから程なくして、横浜市医師会の保育園新設を担当する職員の方から丁寧な電話を頂き、とにかくその時はそれで一応収まった。

その後、その保育園関係者から私の所に挨拶に来るといふ電話はあったが、その日付も二転三

転しなかなか決まらず、結局3月15日となった。

この原稿はその前に書き終えてしまうだろうが、とにかく本日（3月4日現在）、くだんの保育園とは何の正式契約も交わしていない。4月1日から開園するというのに、大丈夫なのであるうか？あまりにも段取りが悪すぎて、イライラする。

因みに、この保育園の開設者は名前を聞いたら誰もが知っている「Kグループ」である。「K工務店」、「K不動産」を始め、フィギアスケートの大会のスポンサーとしても有名である。また、介護や保育の分野でも事業を拡げている。

私がもう1ヶ所園医を引き受けている保育園の開設者もこれほどの大企業ではないが、やはり「H建設」という建設会社である。この開設者からは、園医の報酬が最初の一回振り込まれただけで、その後春秋の定期健診をきちんと行っているのにもかかわらず、連続5期（2年半）振込みが無かったので、さすがの私も催促をした経験がある。

私が言いたいことはただ一つ、現在の日本の資本主義経済の元では、必ずしも保育園の開設者イコール保育のプロではないことの弊害が非常に心配であるということである。

金は出しても、現場で働く職員や園医への配慮が欠けていたら、残念ながらその悪い影響は、何の罪もない園児や保護者の皆さんに波及しかねないではないか？

プロとしてはそのようなことのないよう、私としては冷静に対応するつもりではいるが、いやはや開園前から気が揉める。

保育園入園の待機児童をバンバン減らしていった林文子横浜市長の手腕には敬服するが、横浜市が玉石混淆にならぬようよく監視して頂きたいものである。



## 最近の話題

(10)

### 「未成年者（子ども）の 受動喫煙防止に関する要望」

横浜市小児科医会長

藤原 芳 人

先日、2月26日に第7回日本小児禁煙研究会学術集会（会長：齋藤麗子十文字学園女子大学教授）が開かれました。（第4回の集会は藤原芳人が会頭で横浜にて開催し、本会からの寄付もいただき、事業報告させていただいています。）

オリパラリンピック開催に向けて、国は「受動喫煙防止の法制化」を厚労省、内閣府の主導のもとに計画しています。しかし猛烈な反対抵抗勢力の影響で喫煙エリアの残存や、法の届かないプライベート空間（居宅地や自家用車内）での問題が生じそうです。

我が国が批准しているたばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（FCTC：Framework Convention on Tobacco Control）の目的は第3条に「タバコの破壊的な影響から現在および将来の世代を守ること」とされ、第8条には受動喫煙の防止として「受動喫煙は病気そして死亡をも、もたらすことが科学的に証明されている。受動喫煙を防止することが基本的な人権を守ることになり、タバコの煙に曝されることから保護するために責任と罰則を盛り込むべきである」とあります。

日本小児禁煙研究会は特に子どもを受動喫煙の害から確実に守るために子どもに特化した未成年者の受動喫煙防止に関する要望を発信しました。【別添】

喫煙エリアへの未成年者（小さな幼児だけではなく、未成年の就業者も含めて）の立ち入りあるいは、連れて入る事を禁止する必要があります。

今大会の要望とともに北海道美幌市の受動喫煙防止条例設定の際にも実績がある弁護士、大学教授による条例案の用意もあります。（ここでは長文なので割愛させていただきます）法律の専門家がタバコ煙の拡散を科学的な根拠で提示し、子供への受動喫煙の影響を明示しています。禁煙化した際の飲食店などでの経営への影響についても調査した上で作上げた本格的な法律家による条文です。今後、この条例案は是非いずれかの自治体で制定できるように働きかけたいと思います。



## 第7回日本小児禁煙研究会 未成年者の受動喫煙防止に 関する要望

現在、受動喫煙防止の法制化が検討されていますが、受動喫煙で健康被害を受けているのは大人だけではありません。タバコの煙が子どもたちに気管支喘息、気管支炎、肺炎、中耳炎、乳幼児突然死症候群などを引き起こすことは我が国でもすでに科学的に明らかとなっており、今日も多くの子もたちが受動喫煙に苦しんでいます。

受動喫煙は低濃度でも有害ですが、乗り物内や喫煙室などの密閉された狭い空間における受動喫煙では極めて高濃度の副流煙・呼出煙を吸い込むことになるため、その危険性は計り知れません。このため1992年の国際民間航空機関（ICAO）勧告を契機に、公共の空間である航空機内における禁煙が実現しています。さらに、フランスやイギリスなどでは国全体で、オーストラリア、カナダ、アメリカなどでは多くの州で、未成年者が同乗する自動車内での喫煙が法律で禁止されており、この流れは先進国以外にも拡がりつつあります。自家用車の中はプライベート空間であるとは言え、保護されるべき子どもに対するこれほど強い「他者危害」を放置することはできない、という社会全体の強い意志の表れと言えるでしょう。しかし日本においては、プライベート空間である自家用車内でもチャイルドシートやシートベルトを子どもに装着する義務を運転者に課しているながら、車内の禁煙が義務化されることは今日までありませんでした。

最近禁煙場所の広がりとともに喫煙所が設置されるようになっていますが、その喫煙場所に子どもを連れて入ることにより、さら

に子どもたちが高濃度の受動喫煙にさらされる事態がみられるようになってきました。喫煙所や禁煙席に子どもを入れることを禁止することも子どもたちの健康傷害を防ぐために必要なことではないでしょうか。

2000年5月24日、わが国で「児童虐待の防止等に関する法律」が制定されました。第2条が定義する児童虐待には受動喫煙と言う言葉はありません。しかし同法の第1条にあるように、「児童の人権を著しく侵害し、その心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与えるとともに、我が国における将来の世代の育成にも懸念を及ぼす」ものが児童虐待であるならば、受動喫煙は児童虐待に相当するとも言えます。

子どもたちの命と健康は、大人たち皆で守る。子どもたちは、将来に託す私たちの希望、私たちが将来に遺すことができる最高の遺産（レガシー）です。私たちは子どもたちの健康と未来のために活動する専門家として、未成年者が同乗する全ての自動車内における喫煙を禁止すること、ならびに、未成年者を伴った喫煙室や喫煙席への立ち入りを禁止することをこれからの政策に盛り込んで頂くよう、ここに要望致します。

2017年2月26日

第7回日本小児禁煙研究会 大会長  
齋藤麗子  
日本小児禁煙研究会 理事長  
井埜利博

# 研修会抄録

## 横浜市小児科医会学術講演会

日 時 平成28年10月26日（水）19：00～21：00

会 場 横浜ベイホテル東急B 2 Fアンバサダーボールルーム

### < 講演 1 >

### 「食物アレルギー診療ガイドライン2016改訂のポイント」

講 師 独立行政法人国立病院機構相模原病院 臨床研究センターアレルギー疾患部長  
海老澤 元 宏 先生

食物アレルギー



アナフィラキシーが重要

#### ◎即時型アレルギーの実態

- ・ 0歳が多く年を経るごとに減少してゆく
- 1. 卵 2. 牛乳 3. 小麦 4. ピーナッツの順が多い
- 新規で発症では1.2.3歳では魚卵（いくら）が多くなってゆく
- 0～6歳までは0歳児と同じで鶏卵・牛乳・小麦だが15歳以上では大人と同じようなピーナッツ等が増えてくる
- NEJMイギリスのデータ ピーナッツを食べたほうがアレルギーは減少する。

食物アレルギーリスク因子

- ・ 秋冬生まれの児
- ・ 家族歴
- ・ 皮膚バリアの低下
- ・ 環境中の食物アレルゲン
- ・ 離乳食を遅らせないこと



食物アレルギーリスクが増加

皮膚テスト・感作陽性でも原因物質をなるべく接種したほうが良い

乳児期から専門医療機関へ紹介してほしい。

NEJM 4～11か月ハイリスク乳児での試験では低年齢のうちに摂取しておくことが大事

とらないと IGe抗体が上がってくる。

皮膚テスト IGe抗体でも証明されている。

妊娠中・授乳中の食物除去は×

母乳栄養 エビデンスはなし

週一回くらいの人工乳 牛乳アレルギーを減少

離乳食の開始時期 5～6か月くらいが適当

スキンケア アトピーを30%～50%予防

プロバイオティクス まだエビデンスなし

#### ◎食物アレルゲン・動物アレルゲン

・・・細かく分類

ナッツ類 種類でいろいろ違う

アーモンド・ヘーゼルナッツはアレルギー少なく

クルミでは多い

#### ◎口腔アレルギーが多くなるもの

・ バラ科

・ キウイ

・ メロン

牛乳アレルギー

乳頭で悪化することがある。  
 喘息の治療薬のドライパウダー製剤は乳頭が入っているのでより症状を悪化させる恐れがある。なのでエアロゾル製剤をお勧め。  
 歯科の口腔ケア用塗布薬 リカルデント  
 GCMIペースト アレルゲンであるため要注意

アメリカインフルエンザワクチンは卵の含有量が多いので注意、日本の物は精製技術が優れているので大丈夫。  
 湿疹についてはまず直すこと。ほっておくとひどくなる。

ひどくなったら専門医に紹介  
 ステロイドと皮膚ケアしても治らない場合  
 ↓  
 母乳が問題となっている可能性

治らなければ専門医に紹介のタイミング  
 病診連携が必要  
 IGe抗体陽性=アレルギーではない  
 種類によって違う  
 コンポーネントで調べる。Glim4 Glim8など  
 食物系後負荷試験  
 ・食物アレルギーの確定診断  
 ・安全接種可能量の確定  
 方法 3段階 少量・中等量・日常摂取量で負荷試験  
 20分以上開けて接種させる。  
 少量接種させると症状が軽減する。

栄養士さんとの連携も大事  
 「食べさせない」ではなく、いかに「食べさせるか」が大事

< 講演 2 >

「ロタウィルスワクチン接種の重要性  
 ～脳炎・脳症の発症抑制を目指して」

藤田保健衛生大学医学部 小児科学主任教授  
 吉川 哲史 先生

1. ロタウィルスのウイルス学

世界的には疾病負担として40万人が死亡  
 これを減少させることがワクチンの一番の役割

日本では10～20人が死亡  
 Disease burdenが重要  
 ウイルスの構造

VP4ヘミグルテニンスパイク 31 Pタイプ  
 VP7外殻カプシド 23 Gタイプ

VP6インナーカプシド：抗原血症の際のモノクロナール抗体

G1P8が67.8% G2P4が12% ワクチンは多いものをターゲットにしている。  
 但し時期や地域によってパターンは違う

ロタウィルス抗原血症からわかること  
 局所感染ではなく全身感染  
 VP6 に対するモノクロナール抗体を使用した。  
 RV抗原量は急性期にピークを迎えその後徐々に減少  
 抗原量と発熱は有意に高く 相関する

2. 脳炎脳症の症状と病態の解明

- ・脳炎脳症は予後不良で今回の症例5例中1例しか救えなかった。
- ・RT PCR 抗原量ではわからなかった。
- ・血清型のタイプも変わったタイプではなかった。
- ・炎症性サイトカインはIL10・IL6が高い場合が多かった。
- ・RV関連脳症 44例

- ・突然死 4.9例  
35例後遺症なし 15例後遺症あり 10例で死亡  
予後予測因子としてLDH (500IU/L) PH (7.15以上)

#### 脳症まとめ

- ・ワクチン発売により重症合併症は減少
- ・CNSへの侵入はなさそう
- ・特殊な血清のタイプではない
- ・サイトカインをはじめとした宿主免疫反応が必要
- ・予後予測因子としてLDH/PHが有用

### 3. ROTAワクチンのインパクト

2000年528000人死亡

2013年 22500人死亡へと減少

理由としては 衛生状態改善・ロタウィルスワクチン

MMWRから

先進国に比し、途上国での効果が今一つ  
Hard Immunityによる間接効果があることが証明

ワクチン接種対象ではない年長児での集団免疫を獲得

日本でもROTA胃腸炎はワクチン後から減少

したがってワクチン接種による減少効果は高い

### 4. NICUでのワクチン接種

NICUの赤ちゃんは対象年齢を過ぎてしまうので接種できないことが多い

フィラデルフィアのデータではNICUで接種しても消化管の状態は悪くない。

愛知の乳児院のデータ

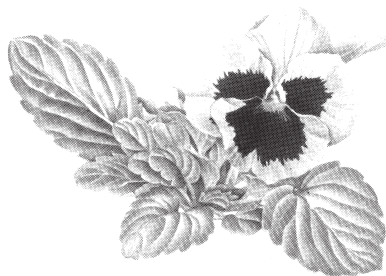
ワクチン接種後1週で便の中からのウィルスが増え2か月ではほとんど出ない。

その際にも周りの子供からはウィルスは検出できなかった。接種した子供のみで出ているので他への感染はなかった。

NICUでも同様のデータであった。

#### 結論

接触感染予防策実施下であればNICU内でのRVワクチン接種は安全にすることができる。



# 第41回横浜市産婦人科医会・小児科医会研究

日 時：平成29年2月3日（金）19：00

会 場：ブリーズベイホテル2階『カタリナ』

< 講演 >

## 「新生児科医による胎児超音波外来」

講 師 東邦大学医学部 新生児学講座 教授

東邦大学医療センター大森病院総合周産期母子医療センター長

与 田 仁 志 先生

新生児科医は、小児科医の中でも、産婦人科医との連携は不可欠であることは論を待たない。長年、出生後の新生児の診断・治療に携わってきた中でつくづく思うことは、出生後にこんな大変な治療を必要とする新生児は生まれる前はどんな状況だったのだろうか？この病気は胎児期のいつ頃から進行してきたのだろうか？という疑問であった。そんな思いが募るあまり、産婦人科の先生にお願いして一緒に胎児超音波検査に立ち合わせていただく機会が自ずと増え、自分でもプローベを握り始めた。そのうちに産婦人科の先生とは異なる視点で胎児を見ていることに気付いたのは、胎内の病児の病態・疾患を出生後に予想される診断治療を現実的に話すのは新生児科医だという責任からかも知れない。そんな中で、産婦人科医が母体を最優先する考えも理解できるようになり、一緒に母体と胎児のことを考えられる態勢はこうして整っていくのだと実感できた。

当日供覧する予定の胎児疾患は①先天性心

疾患、その中でも出生後に急激な変化を遂げるもの、②羊水過多を伴う消化管閉鎖、③染色体異常、とくに18トリソミーなど、④出生後、特殊治療が必要になる胸部疾患（横隔膜ヘルニアなど）、⑤臍帯ヘルニアなどの腹壁疾患、⑦胎児心拍モニターで苦勞する不整脈、⑧双胎、TTTSなどである。

東邦大学の総合周産期母子医療センターでは、胎児期から出生後の治療まで一貫して、新生児科医がかかわる体制で行っており、平成22年度からは小児科外来内に胎児超音波外来を新設した。データから言えることは、紹介元は院内外を問わず、身体部位別でみると心臓病の診断に最も苦慮している現状がある。胎児画像診断を産婦人科医がするのが良いのか小児科医がするのが良いのかの答えは出ないが、少なくとも両科が協調して母児のために最大限の知恵を出して診療にあたる姿勢はどこでも求められる普遍的な事と考える。この分野に興味を持つ産婦人科医や小児科医が増えていくことを期待する。



横浜市小児科医会会長

藤原 芳 人

### 1) 報告；

平成28年度 秋 横浜市小児科医会研修会

平成28年10月26日（水）

横浜ベイホテル東急

講演1) 海老澤 元宏先生（国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部長）に食物アレルギー「診療ガイドライン2016」についての概要をお話ししていただきました。混沌としたアレルギー対応に指針をいただきました。

講演2) 吉川 哲史先生（藤田保健衛生大学医学部小児科教授）に「ロタ脳症」についてご講演いただきました。ロタワクチンの効果と必要性を改めて認識しました。

第41回横浜市産婦人科医会・小児科医会研究会

平成29年2月3日（金）

ブリーズベイホテル

（横浜市産婦人科医会が担当）

講演) 与田 仁志教授（東邦大学医療センター大森病院 総合周産期母子医療センター長）に胎児期の超音波学のお話を伺いました。超音波診断の技術進歩は目を見張る内容でした。小児科医の参加が少なく、内容がとても興味のある内容だったのでとても残念でした。

新生児を専門にしている小児科医にとっては日常的な内容だったのでしょうか？ 出生前診断について倫理的な問題を孕む事例は多いとは思いますが、一般の小児科医にとっては高度な医療技術にただ感心しました。

### 2) 東日本大震災義援金；

東日本大震災の義援金については岩手県の小児科医会から一定の復興が成った現在、今後の義援金を固辞される旨ご連絡があり、常任幹事会にて本年度をもって本会による義援金募集を終了することになりました。添付1の様に各県小児科医会への挨拶状を用意致しました。

会員の皆様のご了解とこれまでの賛同頂いたことに心よりお礼申し上げます。

各県小児科医会への通知文を下記にお示しします。

### 3) 役員人事の予定

会長の交代；私、藤原芳人は平成21年4月から丸8年務めさせていただきました。至らぬ点が多く、皆様には多大なる迷惑をおかけしたのではないかと考えております。

時期からは新進気鋭の相原雄幸先生が12月の常任幹事会で承認されています。大学での教鞭、市中病院そして保健所長など行政の経験も有しており、学術のみならず多岐に目の行き届く素晴らしい会長の誕生です。

他の役員人事（予定）；

- ・村瀬副会長 → 退任
- ・吉田副会長 → 常任幹事
- ・中野常任幹事 → 副会長
- ・田口常任幹事 → 副会長
- ・小泉幹事 → 常任幹事

添付 1

岩手・宮城・福島県小児科医会長 様

早春の候、貴会におかれましてはますますご清祥のことと拝察申し上げます。

2011年3月に起きました東日本大震災におきましては、甚大な被害にあわれ、犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げますとともに、いまだ復興のめどが立たず、御苦労されていることと拝察申し上げます。

さて、私ども横浜市小児科医会会員の個々におきましては、個人としてあるいは勤務先の医療機関そして地元医師会を介して等、様々なかたちで支援をしております。

2011年度より、当医会という単位での支援として、特に大きな被災に遭われた三県（岩手県・宮城県・福島県）の小児科医会へ直接的な支援ができないものかと思案し、支援金をお送りさせていただいているところでございますが、今年も引き続き、会員より「義援金」を募りました。

この度、2月末までに集まりました義援金を、昨年同様の三県の小児科医会様と、今年度は2016年4月に発生致しました熊本県地震に対する支援金として熊本県小児科医会様宛に四等分してお送り致します。些少ではございますが、各県小児科医会の運営や活動（例えば会議費、講演会の講師謝礼金、会報誌の印刷費そして車代など、勿論用途に関しては貴会にお任せしますが…）が円滑に行われ、間接的ですが地域の医療活動への潤滑剤になることを期待しています。

なお、本会としては、復興がなるまで貴会の状況により可能な限りの年度で義援金を継続する意向でございましたが、この度、震災から約6年の歳月が経ち、復興にはまだまだ時間は必要かとは思われますが、本会としての役目については、ある程度果たせたと判断し、誠に勝手ではございますが、支援金のご送付は今年度で終了とさせて頂きたく存じております。

些少にて申し訳ありませんが、どうか貴会の運営に役立てていただければ幸いです。

2017年3月吉日

横浜市小児科医会  
会長 藤原 芳人



## 区会だより

### 青葉区小児科医会

年度下半期は私自身が急な病気療養のため、医会主催の講演会などの活動が停滞しました。

また横浜市小児科医会の仕事（会議・座長など）でも急な交代などご迷惑をおかけしました。藤原会長並びに代理をお願いした先生方には改めてお詫びとお礼を申し上げます。

青葉区での主な活動報告をいたします。

#### 1) 第30回藤が丘小児科クラブ症例検討会 (青葉区小児科医会共催)

平成28年11月30日

於昭和大学藤が丘病院C棟講堂

症例検討会

「二次性夜尿症を伴ったバセドウ病の1例」

特別講演

『子どもの排尿障害の診断と治療』

昭和大学藤が丘病院 小児科

池田 裕一准教授

#### 2) 青葉区福祉保健センター主催の講演会

平成29年2月2日

於青葉区福祉保健センター

「乳児の保護者に対する講話」

さつきが丘こどもクリニック

藤井 孝先生

#### 3) 平成29年度上半期の乳幼児健診医師派遣 日程表の作成

平成29年2月8日 於青葉区医師会会議室

#### 4) 小児科領域におけるインフルエンザワクチンの効果に関する共同研究

平成28年12月～昨年度に続き、小児科医会での多施設共同研究を行っています。

なお前年度の共同研究の調査結果は、3月11日の青葉区医師会学術集談会で発表します。

#### 5) 第24回横浜臨床医学会学術集談会への横浜市小児科医会代表演者派遣

平成28年12月3日 於崎陽軒本店6F

「発達障害いまむかし」

地域療育センターあおば診療所

石塚 丈広センター長

#### 6) 青葉区医師会小児科医会総会

平成29年3月27日 於青葉区医師会館

(文責 阿座上 志郎)

### 南部小児科医会

横浜市南部小児科医会の平成28年度下半期の事業内容をご報告します。

#### ●定例拡大幹事会

平成28年12月6日(火)

於 関内 秀友(当番幹事 住田)

#### ●第26回南部病院小児科地域連携集談会

平成28年12月14日(水)

於 済生会横浜市南部病院

共催: Meiji Seikaファルマ株式会社

①病原性大腸菌(O-1)感染によるHUSの発症が疑われた男児例

秋山佳那子先生

②ITP合併母体より出生した新生児ITPの2症例 中野晃太郎先生

③当科で加療中の自己免疫性好中球減少症の臨床経過について

小形亜也子先生

④マイコプラズマ感染症治療中に尿崩症を疑った2症例 吉田英里佳先生

- 第15回横浜市南部小児科医会,  
金沢区小児科医会新年合同研究会  
平成29年1月21日(土)  
於 ホテル プラム  
共催:第一三共株式会社,  
ジャパンワクチン株式会社

特別講演

「渡航医学, 渡航ワクチンも視野に入れた4種混合ワクチンの重要性と接種タイミング」

講師 The King Clinic 院長  
近 敏雄先生

(文責 森 哲夫)

東部小児科医会

平成28年度後半の主な活動を報告します。

- (1) 平成28年9月15日  
横浜市東部西部合同小児科医会  
(共催:横浜市東部小児科医会・横浜市西部小児科医会)  
演題1: 児童虐待—医療機関が担う社会的養護の現状と課題—  
演者: 横浜市立市民病院小児科  
佐藤 明弘先生

特別講演: より良い感染症診療をめざして～小児感染症の適正治療を考える～

演者: 慶応義塾大学医学部感染症学教室教授 岩田 敏先生

会場: 崎陽軒本店ダイナスティー  
(4F)

- (2) 平成28年12月8日  
第101回横浜市東部小児科医会  
講演1: 「小児アレルギー概論 update」  
演者: 横浜労災病院小児科副部長  
高橋 亨岳先生

講演2: 「当科における食物アレルギー診療の実際  
(負荷試験と積極的除去解除に向けた取り組み)」

演者: 済生会横浜市東部病院総合小児科  
部長 波多野 道弘先生

会場: 横浜労災病院

- (3) 平成28年2月9日  
第102回横浜市東部小児科医会  
演題1: 外科的治療を要した先天性消化管疾患の2例  
演者: 横浜労災病院小児科  
2年次研修医 猪野木先生,  
西山先生

演題2: 熱傷後毒素性ショック症候群の1例

演者: 横浜労災病院小児科  
橋口 万里奈先生

演題3: ヒトパレコウイルス3型によるウイルス性敗血症

演者: 横浜労災病院小児科  
小原 真奈先生

演題4: 当今年度経験した特発性血小板減少性紫斑病のまとめ

演者: 横浜労災病院小児科  
太田 貴子先生

演題5: 横浜市児童虐待防止医療ネットワークの活動報告

演者: 横浜労災病院小児科  
佐藤 厚夫先生

会場: 横浜労災病院

今年度も横浜労災病院・済生会横浜市東部病院の先生方のご協力のもとに、計5回の講演会・症例検討会を行いました。第101回横浜市東部小児科医会では、高橋 亨岳先生・

波多野 道弘先生に食物アレルギーに関する最新の知見をわかりやすく解説いただきました。出席された先生も普段より多く、大変好評でした。

(文責 川端 清)

## 南西部小児科医会

学術講演会1回, 研究会1回を開催しました。

講演会の出席者が少なく残念です。皆様のご参加をお願いします。

「横浜市南西部小児科医会学術講演会」

日時：平成29年1月19日19時30分

会場：ホテルプラム パレ・ロワイヤル

演者：名鉄病院 予防接種センター  
センター長 菊池 均先生

演題：渡航ワクチンの考え方  
～B型肝炎・DPT-IPVも含めて～

「第45回戸塚区小児疾患研究会」

日時：平成28年11月18日19時30分

会場：横浜医療センター 2階大会議室

演者：横浜医療センター 鍋木陽一先生他

演題：

1. 虫垂炎を併発したマイコプラズマ肺炎の1例
2. 再発川崎病に関節炎を合併した1例
3. 外来におけるエピペン処方現状
4. 膀胱尿管逆流症～抗菌薬予防接種と手術の実際～
5. 小腸軸捻転を合併した腸間膜リンパ管腫の1例
6. 著名な腹水貯留を認めた胃アニサキス症

(文責 小泉 友喜彦)

## 西部小児科医会

平成28年度下半期の活動を報告いたします。

※横浜市東部西部合同小児科医会

今回は西部小児科医会が担当しました。

日時：平成28年9月15日(木)

会場：崎陽軒本店ダイナスティー

### 1. 講演

演題：「児童虐待－医療機関が担う社会的養護の現状と課題」

演者：横浜市立市民病院小児科医長  
佐藤 明弘先生

### 2. 特別講演

演題：「より良い感染症診療をめざして  
～小児感染症の適正治療を考える」

演者：慶應義塾大学医学部感染症学教室  
教授 岩田 敏先生

(文責：尾崎 亮)

## 都筑区小児科医会

都筑区小児科医会と昭和大学横浜市北部病院との連携勉強会および港北循環器カンファレンスは下記のように開催されました。

第44回「都筑区小児科医会と昭和大学横浜市北部病院との連携勉強会」(小児科連携勉強会)

期日：平成28年6月10日(金)

午後7時30分～

会場：昭和大学横浜市北部病院中央棟  
9階大会議室

特別講演『食物アレルギーの診療』

昭和大学横浜市北部病院こども  
センター

中村 俊紀先生

第45回「都筑区小児科医会と昭和大学横浜市  
北部病院との連携勉強会」(小児科連  
携勉強会)

期日：平成28年10月14日(金)  
午後7時30分～

会場：昭和大学横浜市北部病院西棟4階講  
堂

症例検討『夜尿を伴う頭蓋咽頭腫の一例』  
昭和大学横浜市北部病院こども  
センター

大戸 秀恭先生

特別講演『はじめよう！夜尿症治療  
～ガイドラインに沿った治療と  
診断～』

昭和大学藤が丘病院小児科  
池田 裕一先生

第46回「都筑区小児科医会と昭和大学横浜市  
北部病院との連携勉強会」(小児科連  
携勉強会)

期日：平成28年12月9日(金)  
午後7時30分～

会場：昭和大学横浜市北部病院西棟4階講  
堂

講演1『ECMO管理を要したヒトメタ  
ニューモ感染症の1例』

昭和大学横浜市北部病院こども  
センター

曾我 恭司先生

講演2『RSウイルス脳炎に合併した急  
性散在性脳脊髄炎の一例』

昭和大学横浜市北部病院こども  
センター

大戸 秀恭先生

特別講演『小児呼吸器系ウイルス性感染  
症～最近のエビデンスと診察ガ  
イドライン～』

国立成育医療研究センター感染  
症科

宮入 烈先生

第20回港北小児循環器カンファレンス

日時：2016年11月10日(金)  
19:00～21:00

会場：昭和大学横浜市北部病院西棟4階講  
堂

一般演題：

演題1「ECMO管理を要したヒトメタ  
ニューモ感染症の一例」

昭和大学横浜市北部病院小児科  
佐々木 先生

演題2「脳卒中による片麻痺で発見され  
た持続性心室頻拍の一例」

聖マリアンナ医科大学病院小児  
科

都筑 慶光先生

教育講演：

「成人になった先天性心疾患患者」

昭和大学旗の台病院小児科

清水 武先生

特別講演：

演題：「医療再編，管理強化の潮流の中，  
職人心臓血管外科医は生き残れる  
か」

昭和大学横浜市北部病院心臓血管  
外科

南淵 明宏先生

第47回「都筑区小児科医会と昭和大学横浜市  
北部病院との連携勉強会」(小児科連  
携勉強会)

期日：平成29年2月10日(金)  
午後7時30分～

会場：昭和大学横浜市北部病院西棟4階会  
講堂

一般演題「Plastic bronchitisを合併した  
小児インフルエンザ(H1N1)

2009重症呼吸不全症例5例の検  
討」

昭和大学横浜市北部病院呼吸器  
センター 助教

鈴木 浩介 先生

講演：

特別講演『インフルエンザの予防と治療』  
けいゆう病院 小児科感染制御  
菅谷 憲夫先生

以上です。

また、月1回語学研修会も、都筑区医師会  
会館で実施しています。毎回、5～8人ほど  
出席があります。実際の臨床現場で、診療に  
使える英語に関しての勉強をしています。

(文責：百々 秀心)

## 金沢区小児科医会

第15回横浜市南部小児科医会・金沢区小児  
科医会新年合同研究会を敢行しました。

特別講演

日時：2017年1月21日（土）  
17：00～18：30

会場：Hotel PLUMM 2階  
Palais Royal の間

座長 もり小児科 院長 森 哲夫先生  
「渡航医学・渡航ワクチンも視野に入れ  
た4種混合ワクチンの重要性と接種タイ  
ミング」

THE KING CLINIC センター長  
近 利雄先生

一般小児科医にとっては少し難しい内容で  
あったが、ニッケではあるものの時に遭遇し  
て困ってしまう話題であったため質疑応答は  
大変活発であった。インフルエンザが急には  
やりだした時期もあって参加者は14～15名と  
やや少なかった。

(文責 浅井 義之)

## ＝ 庶 務 報 告 ＝

### 1. 平成28年度研修会

H28.10.26（水）

横浜ベイホテル東急B2F

出席者：65名

講演① 食物アレルギー診療ガイドライン  
2016改訂のポイント

講師 独立行政法人国立病院機構相模原  
病院  
臨床研究センター アレルギー性  
疾患研究部長  
海老澤 元宏 先生

講演② ロタウイルスワクチン接種の重要  
性 ～脳炎・脳症の発生抑制をめ  
ざして～

講師 藤田保健衛生大学医学部  
小児科学主任教授  
吉川 哲史 先生

### 2. 常任幹事会

第3回 H28.12.7（水）

於 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

出席者：12名

### 3. 役員会

H29.3.22（水）

於 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

出席者：14名

### 4. 第41回産婦人科・小児科研究会

H29.2.3（金）

於 ブルーズベイホテル

出席者：57名（小児科：20名、産婦人科：37名）

講演 『新生児科医による胎児超音波外来』

講師 東邦大学医療センター大森病院総合周  
産期母子医療センター  
教授 与田 仁志 先生

### 5. 広報活動

H28.10.1（金）

小児科医会ニュース（第53号）の発行

6. 表彰

横浜市長表彰（母子保健事業功労）受賞  
 村瀬 雄二 先生  
 横浜市医師会学術功労者表彰受賞  
 大川 尚美 先生

7. その他

\* 東日本大震災・熊本地震義援金  
 （岩手・宮城・福島・熊本3県小児科医会）  
 送金額：940,000円（H29. 3. 13送金）

\* 第24回横浜臨床医学会学術集談会  
 H28. 12. 3（土）  
 会場：崎陽軒本店  
 小児科医会演題：発達障害いまむかし  
 小児科医会演者：石塚 丈広 先生  
 （地域療育センターあおば診療所）

（文責 大山 学）

==== 会計報告（中間） ====

横浜市小児科医会会計の中間報告を申し上げます。

中間報告 H29. 3. 31現在

現在高	1,554,830円
（内訳）現金	0円
郵便貯金	434,672円
医師信用組合	1,120,158円

（会計 池部 敏市）

会員動向（平成28年10月～平成29年3月）

入会 3名

〒 236-0004 金沢区福浦3-9 公立大学法人横浜市立大学附属病院 TEL 045-787-2800  伊 藤 秀 一
〒 232-0024 南区浦舟町4-57 公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター TEL 045-261-5656  志 賀 健太郎
〒 220-0054 西区境之谷73 青木小児科医院 TEL 045-231-4144  青 木 裕

退会 3名

区 名	氏 名	備 考
鶴見区	山崎 昌子	H28. 11. 9ご逝去
	長坂 裕博	
鶴見区	樋川 歌	H28. 12. 17ご逝去

異動 3名

殿 内 力	異動事項：閉院
武 井 智 昭 〒 246-0021 瀬谷区二ツ橋町489-45 なごみクリニック TEL 045-360-8183	異動事項：施設開業
岡 澤 美江子	異動事項：閉院

会員数：239名（平成29年3月31日現在）



## 編集後記

今年3月は桜が咲いているにもかかわらず、やけに気温の低い日もあり、4月に入ってから、寒暖の差が激しい日々が続いている。

そのためか、4月から保育園に新たに入園した乳児の発熱、下痢、喘鳴などによる受診が例年より多いように思える。

保育園開設が増えるのは良いことではあるが、慣れるまで感染症を繰り返さざるを得ない乳児の集団生活の厳しさを実感するとともに、ますます保育園医の役割の重要性を思う次第である。

このたび、長年、当医会を牽引して下さった藤原会長が勇退され、新会長は相原雄幸先生にバトンタッチされることとなった。

我々、役員および会員の諸先生方で、新しい体制を支え、今後の医会の発展を目ざして行くのではないか。

(広報担当常任幹事 大川 尚美)



2017年4月1日発行  
横浜市小児科医会ニュース No. 54  
題字 五十嵐鐵馬  
発行人 横浜市小児科医会  
代表 藤原 芳人  
編集:横浜市小児科医会広報部  
事務局:〒231-0062  
横浜市中区桜木町1-1  
横浜市医師会 地域医療課  
Tel 201-7363